

## 子弟関係, 天才, Learn Better

徐 丙鉄 (情報学科)

定型化した知的仕事は人工知能に代替される時代が来る。人間はより創造的な仕事へとシフトすることになる。これからの時代、「深い学習」が必要とされる。深く学びたいのであれば、「学び方」を学ぶ必要がある。そこで「学び」にまつわる本を3冊紹介する。

師を持つことが成長を促す。また「学び」には態度と姿勢が重要である。内田樹は次のように言う。

## 内田樹「下流志向」講談社（講談社文庫／2009年7月）

「スター・ウォーズ エピソード3/シスの復讐」で、アナキン・スカイウォーカー（後のダース・ベイダー）が師のオビ=ワン・ケノービよりも強くなってしまふ。そして、「俺の方が才能がある。俺の方がもう師匠よりも強い」と言い出して、悪の道へ走ってしまう。・・・アナキンはより強いメンターを求めて、銀河皇帝の仲間になる。そうやって「フォースのダークサイド」に導かれて、力を得たはずのアナキン・スカイウォーカーが、最後にオビ=ワンと対決したときに、ぼろ負けしてしまう。・・・オビ=ワン自身は師匠ヨーダに対する深い敬愛は少しも変わらない。・・・アナキンは「俺は師よりも強い」という自信を得たとき「ドア」を閉じてしまう（ジェダイの騎士道から離れる）。・・・（ジェダイの騎士道の）師弟関係に支えられたオビ=ワンに敗れるわけです。（p. 209～211）



師は現存する人でなくとも、過去の人を師とし、書物を通して対話してもよい。

「天才とはどんな人か」というと、「神に魅入られた人ではなく」、実は「学び」上手な人である。

## デイビッド・ブルックス「あなたの人生の科学」(上・下) 早川書房 (早川文庫／2015年11月)

時間をかけて少しずつ向上していける人が天才なのだ。・・・トップクラスの演奏家たちの練習時間は「まずまず上手い」と言われる演奏家たちの五倍にはなる。・・・天才のやり方は非常に綿密であり、自己批判的でもある。自分たちの技術、技能を細かく分解し、部分ごとの訓練を繰り返し繰り返し行う。・・・有名なメドゥマウントミュージックキャンプでは、楽譜にするとわずか1ページの部分を練習するのに、三時間もかけることがある。普通の五分の一位の速度でゆっくりと演奏する練習をすることもある。（上 p. 271～272）



「学び」の科学、学習理論、ではどれほどのことが明らかにされているのだろうか。そう思う人に、次の本を薦める。

## アーリック・ボーザー「Learn Better」英治出版（2018年7月）

「教育論にあたらしい光を当てたい。」と思い、著者はこの本を書いた。また、「学習にあたってめざすのは思考の体系を学ぶことなのだ」という。「マイクロ経済学を学ぶなら、マイクロ経済学者の発想法を学びたい。」と説く。そして、学習に関する様々なエビデンスを挙げる。まず、「専門知識を習得するには、そのスキルや知識に価値があるとみなさなければならない」ことを指摘する。学習が「価値を見出す」ことで促進した例として、「レゴブロック」やゲーム「マインクラフト」を挙げる。レゴブロックもマインクラフトも、個人的に意味のある何かを作るから、人はのめり込むのだと指摘する。だから、知識の習得に意味を探し、どうすればもっと自分に関連性があるようにできるか、と問うことが重要だと指摘する。

